サービス プロファイルの設定

- サービスプロファイルの概要 （1 ページ）
- サービス プロファイルの設定タスク フロー （2 ページ）

サービスプロファイルの概要

サービス プロファイルにより、Unified Communications（UC）サービスの共通設定で構成されるプロファイルを作成できます。サービス プロファイルをエンド ユーザに適用し、サービス プロファイルにある UC サービスの構成時の設定をそのエンドユーザに割り当てることができます。企業内の異なるユーザ グループごとに異なるサービスを設定でき、その結果、各グループのユーザが、仕事に合わせて設定された適切なサービスを利用できます。

サービス プロファイルは、次の UC サービスの構成時の設定で構成されます。

- ボイスメール
- メールストア
- 会議
- ディレクトリ
- IM and Presence
- CTI
- ビデオ会議サービス

エンド ユーザへのサービス プロファイルの適用

エンド ユーザにサービス プロファイルを適用するには、次の方法を使用します。

- LDAP 同期されたユーザ向け：LDAP ディレクトリからエンド ユーザをインポートした場合、サービス プロファイルを機能グループ テンプレートに割り当てることができ、その機能グループ テンプレートをエンド ユーザに適用できます。
- アクティブ ローカル ユーザ（非 LDAP ユーザなど）向け：エンド ユーザの設定で、サービス プロファイルを個別のエンド ユーザに割り当てることができます。また、サービス

プロファイルを多くのエンドユーザに一度に割り当てるには、一括管理ツールを利用できます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager* 一括管理ガイド』を参照してください。

サービス プロファイルの設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	このサービス プロファイルに割り当てる次の Unified Communications（UC）サービスを設定します。 • ボイスメール サービスの追加 （2 ページ） • メールストア サービスの追加 （3 ページ） • 会議サービスの追加 （4 ページ） • ディレクトリ サービスの追加 （5 ページ） • IM and Presence サービスの追加 （6 ページ） • CTI サービスの追加 （7 ページ） • ビデオ会議スケジュールサービスの追加 （8 ページ）	サービスプロファイル用に設定する UC サービス設定を実行します。
ステップ 2	サービス プロファイルの設定 （10 ページ）	このサービス プロファイルに適用する UC サービスを示すように、ユーザのサービス プロファイルを設定します。

ボイスメール サービスの追加

システムにボイスメール サービスを追加します。複数のボイスメールサービスを追加して、サービスプロファイルに追加するサービスを選択することができます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[ユーザの管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UC サービス（UC Service）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 [UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウン リスト ボックスから [ボイスメール（Voicemail）] を選択します。

ステップ 4 [製品タイプ（Product Type）] ドロップダウン リスト ボックスから、[Unity] または [Unity Connection] を選択します。

ステップ 5 [名前（Name）] にボイスメール サービスの名前を入力します。

ステップ 6 サービスを区別しやすくするための [説明（Description）] を入力します。

ステップ 7 [ホスト名/IP アドレス（Hostname/IP Address）] フィールドに、ボイスメール サービスをホストするサーバのホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。

ステップ 8 [ポート（Port）] フィールドに、ボイスメール サービスに接続するポートを入力します。デフォルトのポートは 443 です。

ステップ 9 [プロトコル（Protocol）] フィールドに、ボイス メッセージをルーティングするために使用するプロトコルを入力します。使用可能なオプションは、[HTTP] と [HTTPS] のみです。

（注） Cisco Unity サーバおよび Cisco Unity Connection サーバのボイスメール転送プロトコルには、[HTTPS] を使用することを推奨します。ネットワーク設定で [HTTPS] がサポートされない場合に限り [HTTP] に変更してください。

ステップ 10 [保存（Save）] をクリックします。

次のタスク

メールストア サービスの追加 （3 ページ）

メールストア サービスの追加

システムにボイスメールサービスを追加します。Cisco Jabber クライアントでは、ビジュアル ボイスメール機能にメールストア サービスを利用します。

（注） Cisco Unity では、Microsoft Exchange サーバでのメッセージ保存用にサブスクライバ メールボックスが作成されます。

Cisco Unity Connection は通常、メールストア サービスを提供し、同じサーバ上でメールストア サービスをホストします。

始める前に

ボイスメール サービスの追加 （2 ページ）

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[ユーザ管理（User Management）]** > **[ユーザ設定（User Settings）]** > **[UCサービス（UC Service）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 **UCサービスタイプ**のドロップダウンリストボックスから**ボイスメール**を選択します。

ステップ 4 ボイスメールサービスに**名前**を入力します。

ステップ 5 Mailstore **サービス**の説明を入力します。

ステップ 6 **ホスト名/ipアドレス**フィールドに、ボイスメールサービスをホストするサーバのホスト名、ip アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。

ステップ 7 [**ポート (** Port)] フィールドで、mailstore サービスの利用可能なポートと一致する 1 ~ 65535 のポートを指定します。~ 1-65535 の間の数字。デフォルトのmailstore ポートは、143です。

（注） Cisco Unity Connectionを使用したセキュア ボイスメッセージングの場合は、7993を使用してください。

ステップ 8 [**プロトコル (** protocol)] フィールドで、ボイスメールメッセージのルーティングに使用するプロトコルを入力します。TCP (デフォルト)、TLS、UDP、または SSL のいずれかになります。

（注） Cisco Unity Connection を使用したセキュア メッセージングの場合は、TLS を使用してください。

ステップ 9 [保存（Save）] をクリックします。

次のタスク

会議サービスの追加 （4 ページ）

会議サービスの追加

システムに会議サービスを追加します。

始める前に

メールストア サービスの追加 （3 ページ）

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[ユーザ管理（User Management）]** > **[ユーザ設定（User Settings）]** > **[UCサービス（UC Service）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 **UCサービスタイプ**のドロップダウンリストボックスから**カンファレンス**を選択します。

ステップ 4 [**製品タイプ**] ドロップダウンリストボックスから、会議で使用する製品を選択します。

- MeetingPlace Classic
- ミーティングプレイスエクスプレス
- Webex

ステップ 5 カンファレンスサービスに**名前** を入力します。

ステップ 6 カンファレンスサービスの**説明** を入力します。

ステップ 7 **ホスト名/ipアドレス** フィールドに、会議サービスをホストするサーバのホスト名、ip アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。

ステップ 8 **ポート**フィールドに、会議サービスの利用可能なポートと一致するポート値を入力します。推奨値は次のとおりです：

- 80 (デフォルト設定): HTTP にこのポートを使用します。
- 443: HTTPSにこのポートを使用します。

ステップ 9 **プロトコル**ドロップダウンリストボックスから、エンドポイントがサービスにアクセスするために使用するプロトコルを選択します。

- TCP（デフォルト設定）
- UDP
- [SSL]
- [TLS]

（注） Cisco Unity Connection を使用したセキュア メッセージングの場合は、TLS を使用してください。

ステップ 10 [保存（Save）] をクリックします。

次のタスク

ディレクトリ サービスの追加 （5 ページ）

ディレクトリ サービスの追加

ディレクトリ検索で、Cisco Unified Communications Manager に外部の LDAP ディレクトリを参照させる場合は、ディレクトリ サービスをシステムに追加します。

始める前に

会議サービスの追加 （4 ページ）

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[ユーザの管理（User Management）]** > **[ユーザ設定（User Settings）]** > **[UC サービス（UC Service）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 [UC サービスの種類（UC Service Type）] ドロップダウン リスト ボックスから、[ディレクトリ（Directory）] を選択します。

ステップ 4 [製品のタイプ（Product Type）] フィールドから、次のいずれかを選択します。

- [ディレクトリ（Directory）]：クライアントが UDS を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースに接続して、ディレクトリ検索をする場合は、このオプションを選択します。
- [拡張ディレクトリ（Enhanced Directory）]：クライアントが外部の LDAP ディレクトリに接続して、ディレクトリ検索をする場合は、このオプションを選択します。

ステップ 5 ディレクトリ サービスの名前を [名前（Name）] に入力します。

ステップ 6 ディレクトリ サービスの説明を [説明（Description）] に入力します。

ステップ 7 [ホスト名/IP アドレス（Hostname/IP Address）] フィールドに、クライアントがディレクトリ検索に利用するディレクトリ サービスをホストするサーバの、ホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。

（注） 外部の LDAP ディレクトリをディレクトリ検索に使用している場合は、その LDAP ディレクトリのホスト名、IP アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。

ステップ 8 [ポート（Port）] フィールドに、ディレクトリ サービスで使用可能なポート番号と一致するポート番号を入力します。デフォルトのポート値は 389 です。また、ポート 636、3628、3629 は、外部の LDAP ディレクトリに接続できます。

ステップ 9 [プロトコル（Protocol）] フィールドに、ディレクトリ サービスとエンドポイント間の通信のルーティングに使用するプロトコルを入力します。次のオプションを使用できます。

- TCP（デフォルト設定）
- UDP
- TLS

ステップ 10 [保存（Save）] をクリックします。

次のタスク

IM and Presence サービスの追加 （6 ページ）

IM and Presence サービスの追加

システムに IM and Presence サービスを追加します。

始める前に

ディレクトリ サービスの追加 （5 ページ）

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[ユーザ管理（User Management）]** > **[ユーザ設定（User Settings）]** > **[UCサービス（UC Service）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 [UC サービス タイプ（UC Service Type）] ドロップダウンリスト ボックスから、IM and Presence を選択します。

ステップ 4 [製品タイプ（Product Type）] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- Unified CM（IM and Presence）
- Webex（IM and Presence）

ステップ 5 [名前（Name）] に IM and Presence サービスの名前を入力します。

ステップ 6 [説明（Description）] に IM and Presence サービスの説明を入力します。

ステップ 7 [ホスト名/IP アドレス（Hostname/IP Address）] フィールドに、IM and Presence サービスをホストするサーバのホスト名、IP アドレス、または DNS SRV を入力します。

ヒント ユーザに適した IM and Presence サービスをクライアントが見つけやすい DNS SRV を推奨します。

ステップ 8 [保存（Save）] をクリックします。

次のタスク

CTI サービスの追加 （7 ページ）

CTI サービスの追加

システムに CTI サービスを追加します。

始める前に

IM and Presence サービスの追加 （6 ページ）

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[ユーザ管理（User Management）]** > **[ユーザ設定（User Settings）]** > **[UCサービス（UC Service）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 **UCサービスタイプ**のドロップダウンリストボックスから**CTI**を選択します。

ステップ 4 CTIサービスの**名前**を入力します。

ステップ 5 CTIサービスの**説明**を入力します。

ステップ 6 **ホスト名/ipアドレス**フィールドに、CTIサービスをホストするサーバのホスト名、ipアドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。

ステップ 7 **ポートフィールド**にCTIサービスのポート番号を入力します。デフォルトのポートは2748です

ステップ 8 [保存（Save）] をクリックします。

次のタスク

ビデオ会議スケジュールサービスの追加 （8 ページ）

ビデオ会議スケジュールサービスの追加

ビデオ会議のスケジュールサービスを追加します。このサービスは、ビデオ会議のスケジュールを設定するためのポータルをテレプレゼンス管理システムに提供します。

始める前に

CTI サービスの追加 （7 ページ）

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UCサービス（UC Service）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 [名前（Name）] にサービスの名前を入力します。

ステップ 4 サービスの**説明**を入力します。

ステップ 5 **IPアドレス/ホスト**フィールドに、ビデオ会議のスケジュールサービスをホストするサーバのホスト名、ip アドレス、または完全修飾ドメイン名を入力します。

ステップ 6 **ポート**フィールドに、ビデオ会議のスケジュールサービスで使用可能なポートに一致するポート番号を入力します。利用可能なポートは次のとおりです。

- 80(デフォルト)または8080:HTTPに対して次のポートを使用します。
- 443または8443:HTTPSに対して次のポートを使用します。

ステップ 7 **プロトコル**ドロップダウンリストボックスで、次のプロトコルのいずれかを選択して、ビデオ会議のスケジュールサービスと通信します。

- HTTP
- HTTPS

ステップ 8 **ポータルURL**フィールドに、テレプレゼンス管理システムへのURLを入力します。

ステップ 9 [保存（Save）] をクリックします。

次のタスク

サービス プロファイルの設定 （10 ページ）

UC サービスの設定

ユーザが使用する UC サービス接続を設定するには、次の手順を使用します。次の UC サービスの接続を設定できます。

- ボイスメール
- メールストア
- 会議
- ディレクトリ
- IM and Presence Service
- CTI
- ビデオ会議スケジュールポータルの設定
- Jabber クライアント設定（jabber-config.xml）

（注） フィールドは、設定する UC サービスによって異なる場合があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [UCサービス（UC Services）] を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 [UCサービスタイプ（UC Service Type）] ドロップダウンリストから、設定する UC サービスを選択し、[次へ（Next）] をクリックします。

ステップ 4 [製品タイプ（Product Type）] を選択します。

ステップ 5 [名前（Name）] にサービスの名前を入力します。

ステップ 6 サービスが存在するサーバーの**ホスト名またはIPアドレス**を入力します。

ステップ 7 [ポート（Port）] および [プロトコル（Protocol）] の情報を入力します。

ステップ 8 残りのフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。フィールドオプションは、導入している UC サービスによって異なります。

ステップ 9 [保存（Save）] をクリックします。

ステップ 10 必要なすべてのUCサービスをプロビジョニングするまで、この手順を繰り返します。

（注） サービスを複数のサーバに配置する場合は、別のサーバを指す複数の UC サービス接続を設定します。たとえば、IM and Presence Service の集中展開では、複数の IM and Presence UC サービスがそれぞれ異なる IM and Presence ノードを指すように設定することを推奨します。すべてのUC接続を設定した後、それらをサービスプロファイルに追加することができます。

サービス プロファイルの設定

このプロファイルを使用するエンド ユーザに割り当てる UC サービスを含む、サービス プロファイルを設定します。

始める前に

サービス プロファイルに追加する前に、Unified Communications（UC）サービスをセットアップする必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、**[ユーザ管理（User Management）]** > **[ユーザ設定（User Settings）]** > **[サービスプロファイル（Service Profile）]** を選択します。

ステップ 2 [新規追加（Add New）] をクリックします。

ステップ 3 選択したサービス プロファイルの設定の [名前（Name）] を入力します。

ステップ 4 選択したサービス プロファイルの設定の [説明（Description）] を入力します。

ステップ 5 このプロファイルに含める各 UC サービスに、そのサービス用の [プライマリ（Primary）]、[セカンダリ（Secondary）]、および [ターシャリ（Tertiary）] の接続を割り当てます。

ステップ 6 [サービスプロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウで、残りのフィールドを入力します。フィールドの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

ステップ 7 [保存（Save）] をクリックします。

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。